

2011(平成23)年度 UECインキュベーション施設

交流会(プレゼン道場)の意義

このショート・レクチャーの狙い:

UECインキュベーション施設入居者が交流会(プレゼン道場)の意義を理解・共有し, 意識を高める。

日時 2011年10月24日(月) 10分間

場所 電気通信大学 西11号館 イノベーティブ研究棟5F

講師 安部 博文 Abe Hirofumi 博士(経済学) 中小企業診断士
電気通信大学 産学官連携センター IM兼産学連携CD

本レクチャーの構成

- 1 交流会（プレゼン道場）の意義
- 2 交流会（プレゼン道場）の方法
- 3 質疑応答



▲2011年9月26日、UECインキュベーション施設入居企業交流会（第1回）。

1 交流会(プレゼン道場)の意義 1/2

本交流会の背景(コンテキスト)の説明。

▼**本学が目指すのは「総合コミュニケーション科学」の創造と発展による21世紀の社会と世界への貢献**である。その本学で初の拠点施設である**当インキュベーション施設が目指すものは、「①研究成果を生かした大学発ベンチャーの創出。②地域企業と連携した新産業・新事業の創出」による地域経済への貢献**である。
(電気通信大学インキュベータご案内より)

▼第2条(目的) **インキュベーション施設は、電気通信大学での研究成果を基にした本学教職員及び学生のベンチャー企業設立の支援及び電通大学発ベンチャーの育成支援の場として活用することにより、大学の社会への貢献を果たすことを目的とする。**
(電通大西11号館インキュベーション施設管理運営細則より)

1 交流会(プレゼン道場)の意義 2/2

交流会(プレゼン道場)は、本学と当インキュベーション施設が目指すものの実現に(結果的に)つながる活動である。

プレゼン道場では、インキュベーション施設入居企業が、どのようなイノベーションによって社会や地域経済への貢献を果たそうとするのかについて、**文字・数字・図表・言葉によって経営戦略を明らかにする。**

また、**質疑応答によって新しい視点に気づき、戦略を改善する。**

インキュにおける「**総合コミュニケーション**」の実践である。

プレゼン道場は、個々の知をインキュ入居者各位によって拡大・充実しイノベーションに結実させる**知識創造活動の場**である。

2 交流会（プレゼン道場）の方法

【**プレ**】 所要期間約1か月

- 1 社長・代表が考えるイノベーションをビジネスプランの形に「表出化」する。（表出化とは、社長の頭の中にある「暗黙知」を文書・図表に転換することをいう。表出化された知は、ICTに乗るデジタル知である）
- 2 ビジネスプランをPPTにまとめる。IMが1と2の表出化支援を行う。

【**メイン**】 プレゼンと質疑応答，合わせて45分

- 3 PPTを使い10～15分のプレゼンテーションをする。
- 4 30分の質疑応答をする。社長・代表の知を共有拡大。
- 5 社長・代表は活動を振り返り，新しい暗黙知を生み出し，1へ。

【**ポスト**】 次回プレゼンまでの期間

- 6 PPTのうち定性的な部分をインキュHPで公開。

3 質疑応答（質問者用）

(1) 質問前。

- ・相手のプレゼンをよく聴く。
- ・質問したいポイントを自分で確かめる。
- ・自分の質問のタイプを確認する：相手にYes or Noで答えてもらいたいのか、自分の理解が正しいかどうかを確認したいのか、追加的な解説を求めるのか、言葉の意味を説明して欲しいのかetc.

(2) 質問する段階。

- ・笑顔を意識する。
- ・礼儀正しく名乗る。
- ・聞きたいポイントをずばりとの的確な言葉で言う。
- ・質問事項の理由を言う。
- ・短い文で喋る。

(3) 回答を得た段階。

- ・礼儀正しくお礼を述べる。

3 質疑応答 (回答者用)

ズバリと答えよ。

END

Let's begin!